

## 平成 23 年度（前期）海外渡航旅費助成金報告書

京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻  
修士課程 2 年 岡本京祐

平成 23 年 6 月 28 日から 7 月 7 日にかけてオーストラリア、メルボルンに於いて行われた、IUGG General Assembly に、地震学会からの助成金を得て参加させて頂きました。ここに、関係者の皆様に感謝の意を示すと共に、学会参加報告をさせていただきます。

IUGG は測地学と地球物理学に関わる 8 団体連合の学会である。私は IASPEI の主催するセッションが始まる前日、29 日に現地入りし来る学会発表に備えた。会場の Convention center はメルボルン中心部から程近く、市内を流れるヤラ川沿いに立地した近代的な建物であった。街の中を整備された川が流れ、高層ビルと自然が融合する綺麗な街並み、治安の良さから、過去に住みよい街世界 1 位に輝いたことも納得できる。また、市内をぐるりと無料トラムや路面電車が走り、環境問題に配慮した街であることも伺えた。

連日、90 分間のオーラルセッションが午前、午後に分かれて 4 つと、午後に 1 つのポスターセッションが行われた。ポスターセッションのコアタイム(90 分間)にはオーラルセッションが中断するため多くの聴衆が訪れる盛況ぶりを見せていた(写真 1)。私は " Anisotropy and attenuation: mechanisms,

processes and observation " というセッションで発表をした。題目は " Relationship between Coda- $Q$  and stress loaded to an elastic body ~Estimation of physical state parameters derived by stochastic seismic measurement~ " である(写真 2)。コーダ波の時間減衰から得られる Coda- $Q$  値より、地殻の応力変化の情報を得るという試みであり、数値実験により地殻に応力が載荷された際の Coda- $Q$  値の変化の挙動について議論した。「Coda- $Q$  値と地震活動を結びつけた研究は過去にいくつか存在するものの、物理量である応力変化と直接的に結びつけた研究は数少なく、興味深く先が楽しみだ」という好意的な意見を頂いた一方、「地震が発生した際に大きな地殻変化が発生し Coda- $Q$  値の変化が表れるのだから、Coda- $Q$  変化から地震の準備過程の応力が実際に捉えられるのか、実データの解析が待たれる」という貴重なご助言も頂く事ができた。国際学会での発表は過去に数度経験はしていたが、" attenuation " と冠したセッションに提出したことは初めてであった。過去の発表では Coda- $Q$  とは何かという説明から始めるが多かったが、今回は「周波数依存性について」や「サイズパラメータについて」等の更に踏み込んだ議論ができ有意義



(写真 1・左) ポスターはグランドフロアの到る所に展開されていた。

(写真 2・右) 多くの研究者にポスターを訪れて頂いた

であった。

また、IASPEI の主催するセッションに参加して、地震学の分野では日本の研究者が世界で中心的な役割を果たしていることを感じた。その一方で、地殻活動の活発な日本には世界各国の地球物理学者が興味を持っており、日本の各地域をあらゆる分野から研究しているということも身を持って感じた。その研究者たちから私の知らなかったことが次々と教えられたという経験は、感銘を受けるとともに、焦りにも似た感覚を覚えた。活発な地殻活動があり、世界最

高水準の地球物理学者が集い、質の高い研究をできる日本という環境を活かして、積極的に海外へ向けて発信し、日本のプレゼンスを高めるという過程の中で微力ながらも力になることができるように今後も精進したい。

最後になりましたが、海外渡航旅費を援助してくださり、貴重な経験をすることができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。